平成２５年度日露青年交流事業
「モスクワ大学への日本人学生１００名派遣」
分科会Ｂメディア報告書

大阪大学
小野　京香

平成２５年度日露青年交流事業「モスクワ大学への日本人学生１００名派遣」
分科会Ｂメディア報告書

大阪大学　小野京香

はじめに

２０１４年3月１６日～２０１４年3月２２日に平成２５年度日露青年交流事業「モスクワ大学への日本人学生１００名派遣」プログラムが実行された。多くの青年にとってロシアを訪れることは初めてであり、期待と不安を交えながら日本を旅立った。この報告書を通してこのプログラムがどのように行われ、我々はどのように感じていたのかを理解して頂けたら幸いである。

１．３月１６日 出発日

約１０時間のフライトを終え、モスクワに到着した。日本より肌寒かったが、ロシア人学生が空港まで迎えに来てくれており、おしゃべりをしているうちに寒さのことは忘れた。

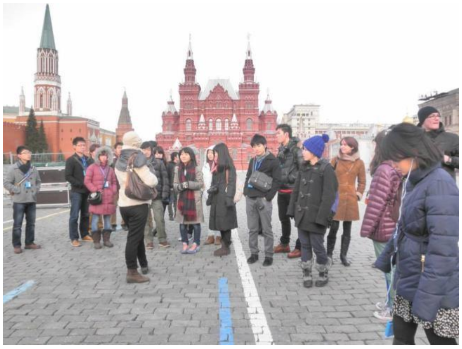
１時間半ほどバスに乗り、モスクワ大学の寮に着いた。セントラルヒーティングというものを初めて体験した。日本の室内よりはるかに温かく、過ごしやすかった。部屋の中であれば、トイレも洗面所も廊下も温かいので非常に快適であった。この日は寮の部屋においてあったお弁当で夕食をすませた。

２．３月１７日

①モスクワ市内視察

この日はバスに乗ってモスクワ市内視察に行った。
始めに案内されたのは雀が丘である。ここはモスクワ大学の近くにある場所で、モスクワ市街を見渡せる場所として非常に有名なところだ。

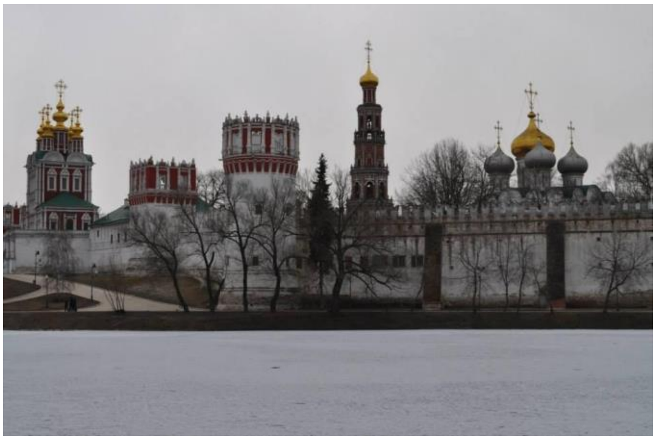
次に案内されたのは勝利公園である。５分しか観光する時間がなかったがそびえたってい る塔を見たくて皆走っていった。予想以上に遠かったが、近くで見るとその大きさにただ
圧倒されるばかりであった。



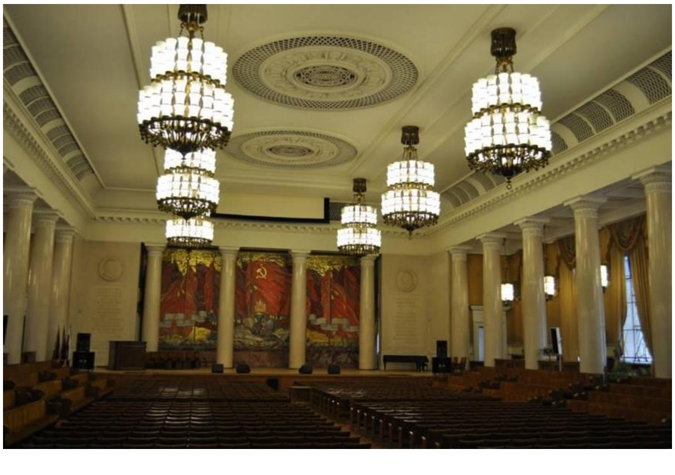
赤の広場にあるレーニン廟も見学した。ここにはレーニンの遺体が保存されている。

次に休憩も含めグム百貨店を訪れた。グム百貨店はクレムリンの反対側に建つ。百貨店に入ると中の荘厳なデザイン、高い天井などに驚いた。

赤の広場の最後の観光スポットとして、イワン雷帝によって建てられた**ポクロフスキー聖堂（ワシリー聖堂）**を見学した。時間の都合で中には入れなかったが、外観も素晴らしく魅了された。内観光の最後にノヴォデヴィチ修道院をモスクワ川対岸から見学した。



②モスクワ大学構内案内及びモスクワ大学歴史博物館訪問
昼食を食べ終えスクワ大学長と記念撮影を行った後、モスクワ大学の学生によって大学構内を案内してもらった。大学内にはモスクワ大学を卒業して著名人の銅像がたくさんあった。式典が行われる講堂は大変広く、内装が豪華だった。



モスクワ大学の玄関を出たところ、農民や労働者や女性の彫刻があった。これはどのような人にも勉強する資格があるということを表していると学生が説明してくれた。モスクワ大学創設者のミハイル・ロモノーソフさんの意思を示している彫刻作品であると感じた。その後、図書館内のモスクワ大学歴史博物館を訪問した。

③日本センター会話クラブ「ラマーシュカ」訪問
ラマーシュカにはモスクワ大学の学生以外にもモスクワ市内にある大学から学生が集まっていたので、非常に刺激的であった。第一部ではロシア人学生と日本人学生によるプレゼンテーションが行われた。テーマは「学生生活について」であった。ロシア人学生による発表は様々で、自分の１日の生活について発表する学生から日本語を学んでいる様子を説明したり、大好きな日本語で作成した映像作品を流したりする者もいた。日本人学生はサ ークルについて語る者や自分自身が学んでいる大学の問題点を指摘する者、駅伝紹介する　者など日本の学生生活以外にも日本のことを学べるプレゼンテーションに仕上がっていた。 また、日本からロシアに留学に来ている学生のプレゼンテーションではロシアでよくみか けるあるある１０項目について発表し、おおいに会場を盛り上げた。会場の雰囲気が温ま ったところで第二部にうつった。第二部では学生同士の交流が行われた。ここでは日本のアニメについて語り合う者、日本とロシアの大学生活について語り合うグループなど様々な話題で交流を深めた。
ほとんどの学生が流暢に日本語を話すので大変驚いた。学習歴を聞いてみると１年～５年と様々であったが、皆、日本語がどれほど好きか伝わってきた。私と同じグループになったロシア人学生は武士が大好きで、その知識の深さにただ感心するばかりであった。

３．３月１８日
① モスクワ大学の歴史と現在についての講義
国際関係学部の講義室でモスクワ大学の歴史と現在についての講義が行われた。講義の最後にはマルバツクイズが行われ、授業は盛り上がった。

② モスクワ大学地球博物館

講義のあと、モスクワ大学地球博物館を視察した。この博物館には貴重な鉱物、化石を保 存している他、地球の成り立ちが説明されているブースや動物の剥製がおいている箇所があり見学するところが満載であった。博物館は５フロアあり、すべてを見回るのに２時間以上かかった。この博物館で最も印象的だったのは本物のマンモスの牙が展示されてあったことである。間近でこのような牙を見たことがなく迫力満点であった。

③ トレチャコフ美術館
トレチャコフ美術館はパーヴェル・トレチャコフによって創設されたモスクワで最も有名な美術館である。時間が限られていたので、ガイドさんが選りすぐりした作品を中心に見学した。１８～２０世紀初頭のロシア美術の変遷を学ぶことができた。１８世紀の作品は 貴族や偉人の肖像画がメインであったが、時代が過ぎるにつれて、農民の姿が描かれていたり、風景画が増えてきたりと美術作品から歴史背景も読み取れることも多かった。
展示の最後は、イコン絵画のコーナーであった。このコーナーでは名画「聖三位一体」を見学することが出来た。

４．３月１９日
① クレムリン視察
クレムリンは「城壁」という意味も持つ。以下のものを主に見学した。
・大砲の皇帝。アンドレイ・チョホフによって鋳造された大砲である。口径は890mm、重量は 40 トンにもなる。
• 鐘の皇帝。
実はこの鐘は未完成のままである。欠けた部分も飾ってある。
・ウスペンスキー大聖堂。
モスクワ総主教の葬儀が行われた場所でもある。
イワン一世によって建てられた聖堂。イコン画とフレスコ画で壁と屋根は埋め尽くされている。また、三位一体像が飾られていた。室内のシャンデリアが大変綺麗で思わず見とれてしまった。
・武器庫・ダイアモンド庫
剣の柄の細かい部分まで宝石で装飾されていた。宝石が大好きな女の子にとっては夢のような場所であろう。どこを見渡してもキラキラと宝石が輝いていた。
他国からの貢物としてもらったという食器はきめ細かいデザインが施されていた。そして何よりインパクトがあったのが馬車であった。装飾は豪華でまるでおとぎ話にでてくるような馬車であった。一番大きな馬車であると１１～２２匹の馬で引くと聞き、その重さに驚いた。タイヤの直径は私の身長（１４６㎝）より大きかった。

② 昼食
　食堂内にシャンデリアがあり驚いた。高級レストランを思わせるような豪華な内装、テーブルとイスで食堂とは思えなかった。
ボルシチを堪能し、ロシア人学生との会話を楽しみながらゆっくり食事をした。

③ 分科会活動
ジャーナリズム学部の校舎視察が最初に行われた。二つのグループに分かれ構内を視察した。
　講義室を見学したり、講義風景を覗いたりと非常に興味深い視察であった。日本の大学では廊下にベンチをあまり設置していないので、廊下の至る所にベンチが置いてあるのが不思議であった。しかし、ベンチに座り、談笑を楽しむ姿や勉強する姿を見て、このベンチ制度を日本でも取り入れてほしいと思った。
日本語センターもあり、日本語の本や漢字のポスターが飾られていた。その後、ジャーナリズム学部の学生との交流が行われた。

ロシアの伝統のお菓子ブルヌイやI♡JAPAN と書かれたマフィンなど用意して下さっていた。
お菓子を食べながら、ロシア人学生と日本とロシアの文化の話や学生生活について語り合い交流を深めた。

最後に皆で集合写真を撮り、分科会交流を終えた。

５．３月２０日

① 日本人学生・モスクワ大学生によるスピーチ総会

「日本とロシア：青年協力の拡大」についての発表が行われた。学長会談が行われたというこの部屋は八角形の形をしており、
ロシア人学生５名、日本人学生５名の計１０人による発表であった。
総会は全て英語で行われた。分科会Ｂメディアからは新関康平が“Why Do We Need to Expand Youth Collaboration?”について発表を１０分間行った。分科会Ａアニメからは青柳沙耶、分科会Ｃ芸術からは柴田啓成、分科会ＤＴ茶道からは酒井麻里奈、水野祐地が代 表しスピーチを行った。個人個人の発表であるが、全員の発表に共通した柱を持ち、それ ぞれの発表内容を適宜引用しながらのスピーチとなり、今後の日露の青年協力の拡大がい かに重要かを再確認できる発表であった。
ロシア人学生の発表は主に自分たちがこれまで行ってきた日露の青年交流について発表し、実体験から日露の青年協力の大事さを伝えた。

② 立食パーティー

ピロシキやシャシリク（やきとりのような料理）などが振る舞われ、ロシア料理を堪能した。

③ 閉会式
閉会式が行われたところは大変豪華な部屋であった。サドーヴニチィ学長からの挨拶やモスクワ大学の学生によるコーラス発表もあった。ロシアでは皆が知っているというラテン語の歌や日本でおなじみの曲「あかとんぼ」などを合唱した。その美しいハーモニーに会場は包まれ、発表後は大きな拍手がコーラス隊に送られた。
学生による今回の滞在についての印象を述べる発表が行われた。モスクワ大学長や副学長が同席している中での発表で学生は緊張している様子であったが、いざプレゼンテーションが始まるとはきはきと発表を行った。分科会Ｂメディアからは日置友智が代表して発表した。分科会Ａアニメからは古川渉太、加藤雅人、分科会Ｃ芸術からは藤賀晃、分科会ＤＴ茶道からは野田千暁が代表してプレゼンテーションを行った。各発表者のプレゼンテーションからいかに今回の滞在が楽しく有意義のものであったのか伝わってきた。
最後にはこのプログラムの修了証明書が学長からそれぞれ手渡しで渡された。

④バレエ「白鳥の湖」の観劇
移動に時間がかかってしまい、少し遅れて劇場に入った。すると、「どこでもいいから座りなさい。」とおばあさんにせかされ、なんと３列目で第一部を観劇することとなった。このような至近距離でバレエを観劇するのは初めてで、非常に嬉しかった。ダンサーひとりひとりの表情や手の込んだ衣装の細部まで見ることが出来た。なんといっても、踊りから溢れてくるパワーがじんじんと伝わってきて、あっという間に白鳥の湖の世界に取り込まれていった。第一部が終わり、休憩時間となった。休憩時間になると劇場内での写真撮影が許され、多くの観客が写真撮影を行っていた。特に、オーケストラ隊が合奏を行っている場所が人気で大人から子供まで興味深そうに写真を撮っていた。
休憩時間が終わり、第二部が始まった、第二部は自分の席で観劇した。最後尾で観劇する こととなった。最後尾は舞台全体を見渡すことができ、各ダンサーのダンスも一度に見ることが出来ストーリーの流れが非常に分かりやすかった。
子供音楽劇場という劇場の名前で子供向けのバレエと思っていたが、カップルで見に来る 若者や夫婦で観劇する者もいたりと大人も十分楽しめる作品であった。公演後、バレエの話でおおいに盛り上がっているプログラム参加者学生も見られた。
小さな子供も観劇しており、日頃から舞台に親しんでいる様子が伺えた。

６．３月２２日　　　帰国日
①在ロシア日本大使館訪問
モスクワ市内にある在ロシア日本大使館を訪問した。大使館の職員の方々が温かく出迎え て下さった。こちらでは、現職員の方から仕事内容について教えて頂いたり、海外生活についエピソードを聞いたりし、交流を深めた。訪問している学生の先輩方もおられ、今後の将来のイメージがつかめる良い機会となった。私は大学でロシア語を専攻しているが、 ロシア語専攻卒業の先輩と出会い、実際にロシア語を使って仕事をするのはどのようものであるかを聞くことができ、貴重な経験となった。

②空港に到着。日本へ帰国。
日本に帰る前にロシア料理を堪能した。

最後に
日露青年交流事業「モスクワ大学への日本人学生１００名派遣」に参加し、ロシアに対するイメージが変わった。私は大学でロシア語を専攻し言語以外にも文化や社会構造などを学んだが、やはりロシアに対して、暗い、怖いといマイナスなイメージを払拭することは出来なかった。しかし今回実際に同年代のロシア人学生と交流し、彼らの生活や考えを知ることでロシアに対する印象が変わった。これこそ「草の根交流」の持っている力ではないか。日頃私たちがロシアに触れるのはニュースで流れてくる時くらいで、それも日本のメディアが創造したロシアという国に触れているといっても過言ではない。実際にその土地を訪れ、そこで生活している人々と交流しなければ、その国のことなど分からない。若いうちから交流を深めていれば、その後、お互いの印象が変わっていくはずである。そして、自分の目でみたロシアはテレビから流れてくる「創造のロシア」とは違うことが理解できるはずである。このような機会を与えてくれるのが青年交流事業である。
青年交流事業は将来友好的な関係を築くことにつながる第一歩であろう。これからもこのような交流事業を継続し、長年に渡ってロシアと素晴らしい関係を築いていってほしい。私もロシアと日本の関係がさらに良くなるよう尽力に努めたい。